

第4回通常総代会 議案書ダイジェスト

編集：総合企画室 TEL 025-260-3351
ホームページアドレス <https://niigata.coopdeli.coop>
コープデリにいがた 検索 Q 2025年5月26日発行

○このダイジェストは総代会議案の要旨をまとめたものです。さらに詳しい内容を知りたい方は、総代会議案書をお届けしますので、宅配センターまたは地域担当者にお知らせください。
○ダイジェストについての質問・意見・感想などは、総合企画室までお寄せください。

第1号議案 2024年度事業報告・決算報告および剰余金処分案承認の件・監査報告

I 2024年度事業活動のまとめ
1. 2024年度の概況（2024年3月21日～2025年3月20日）

- ①コープデリ宅配事業「つかうほど、じぶんらしく。」をブランドメッセージに、より便利な利用制度やサービスの提供と魅力ある商品やサービスの提供を進め、ふだんの暮らしに貢献、着実な事業成長を目指し組織合同3年目を進めました。
- ②コープデリにいがた3年目として組織・業務運営基盤の確立、仕上げに向けた取り組みを進め、とりわけ宅配事業運営は、コープデリグループ統一の「行動指針」「地域担当10か条」「営業マインド」に基づいた業務遂行の浸透・定着を図り、誰もが確実に実践できる状態を目指しました。
- ③組合員数は年度末で243,660人になりました。新潟県内世帯数の26.5%になります。
- ④1年間の総事業高は289億3,249万円、前年比101.2%、予算比100.9%でした。経常剰余金は7億514万円、前年差△1億8,933万円で前年を下回り、予算差3億1,858万円で予算を上回りました。
- ⑤「ブランド浸透」、「新規加入促進」を目的としたテレビCMを行い、県内のコープデリ認知度向上を図りました。
- ⑥物価上昇の中で、組合員の生活を守るという視点から、「くらし応援キャンペーン」や「生活応援大感謝祭」、「クーポン企画」等の価格プロモーションを展開し、利用しやすい価格の実現に取り組みました。
- ⑦ウイークリー（宅配）事業の供給高が計画を上回ったことから、一人ひとりのご利用高に応じてポイントを還元する「特別感謝ポイント還元」を実施しました。
- ⑧記録的な猛暑等による米不足から、8月中旬以降ご注文にお応えすることができず、大変なご不便・ご迷惑をお掛けしました。令和6年産米についても市場に流通している量が少ないことから、米の価格が高騰し、調達・供給が不安定な状況が続いています。
- ⑨コープデリグループビジョン2035を中期計画の基本とし、次期2年間のコープデリにいがた課題について整理し、次期中計課題として策定しました。
- ⑩組合員への感謝を込めて、また、事業と活動を県民にアピールすることを目的に「コープデリにいがたフェスタ2024」を開催し、8千人以上の来場者で賑わいました。
- ⑪SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、大切にしたい3つの視点（商品でつながる、地域とつながる、未来へつなげる）をかかげ、さまざまな組合員活動に取り組みました。

- ア. 1年間の供給高は275億5,870万円、予算比100.8%で予算を上回りました。
- イ. 発行人数は予算比100.1%、利用人数は予算比100.7%で予算を上回りました。
- ウ. 客単価は予算比100.1%で予算を上回りました。「くらしちらし」を活用したおすすめ行動や、にいがた独自カタログ「にいがたじまん」の効果もあり供給高の予算達成に繋がりました。
- エ. ダイレクト宅配の供給高は9,118万円、予算比100.0%でした。

② 組合員動態

	2024年度予算	2024年度実績	予算比
加入者数（人）	13,009	13,100	100.7%
脱退者数（人）	8,000	9,391	117.4%
純増（人）	5,009	3,709	74.0%

- ア. 新規組合員拡大は、予算比100.7%で予算達成しました。営業部が予算比99.0%（前年比87.7%）、宅配事業部は予算比103.4%（前年比97.3%）の到達です。また、脱退数は予算比117.4%と計画を上回り、純増数は予算比74.0%に留まりました。

(2) ウイークリー（宅配）事業の取り組み

- ① 発行人数確保の取り組みでは、新規組合員拡大に取り組んだ他、注文書発行停止者への一斉発行（利用再開）の年間4回実施や申請停止者の利用再開の取り組みを行い、発行人数確保に繋がりました。
- ② 利用人数確保の取り組みでは、「くらしちらし」を活用した商品コミュニケーションや留守宅へのコミュニケーションカード対応、未利用者・連続未利用者への架電対応を継続実施しました。また、「クーポン企画週」「生活応援大感謝祭」等のプロモーション週と位置付け、全体で統一した取り組みを実施しました。GW（5月2回）、お盆週（8月2・3回）、年始（1月3回）では利用減の抑制を目的に「独自ポイントプレゼント企画」を実施、年間を通じて利用人数確保の成果に繋がりました。
- ③ 利用サポートスタッフによる商品学習を実施し、組合員のさまざまな生活場面をイメージできる情報、食に関心をもってもらえる情報（市販品との食べ比べやアレンジレシピ等）を意識して、おすすめ商品のおいしさや訴求ポイントなどを組合員に提案できる状態を目指しました。
- ④ eフレンズの登録推進に取り組み、eフレンズ利用率目標31.9%に対して33.1%で目標達成しました。年3回実施したキャンペーンと連動させた学習会を通して地域担当者のeフレンズ知識が積み上がった事で推進力を向上しており、利用率向上に繋がっています。

項目	2023年度末実績	2024年度末実績	伸長率
eフレンズ登録率	48.0%	52.7%	4.7%
eフレンズ利用率	26.5%	33.1%	6.6%

- ⑤ 商品に関する取り組みでは、商品の値上げが続く中で「くらし応援キャンペーン」や「生活応援大感謝祭」、「クーポン企画」等の利用しやすい価格の実現に取り組みました。また、値上げによる利用低下を抑えるため、価格の見直しやリニューアル、新規商品の導入など品揃えの活性化を進めました。地域企画「にいがたじまん」を発行し、新潟を大切に商品品揃えや商品開発を進めました。「くらしちらし」を活用したおすすめ行動や組合員活動での学習会の取り組みにより認知度も向上し、年間では供給高・利用人数ともに前年を上回ることができました。

2. 事業経営の状況

(1) ウイークリー（宅配）事業

① 事業状況について

	2024年度予算	2024年度実績	予算比
供給高（千円）	27,331,000	27,558,701	100.8%
発行人数（人）	6,587,666	6,597,165	100.1%
利用人数（人）	5,724,217	5,764,182	100.7%
客単価（円）	4,775	4,781	100.1%

⑥商品の安全に関する取り組みでは、「コープデリ商品検査センター」で数多くの検査データを蓄積し、フードチェーン全体での食の安全の取り組みを適切に機能させるとともに、検査結果を分析することで商品の改善、品質向上に役立てました。



▲コープデリ連合会商品検査センター

⑦業務品質向上の取り組みでは、安全運転指針に基づいた安全運転を徹底しました。週次の安全運転朝礼、月次の安全運転センター会議を柱にドライブレコーダー点検やバック箇所削減の取り組みを計画的に実施しました。また、コープデリグループ統一の「行動指針」等に基づく組合員対応の向上に努め、2024 年度組合員満足度調査の業務品質項目遂行度の評価では 2 年連続で第 1 位を獲得しました。

⑧中越エリアの隣接する宅配センター（長岡・中越センター）を統合し、2026 年 7 月度の新センター稼働に向けて準備を進めます。本部機能の統合については基本構想の策定を計画しましたが、2024 年 1 月の能登半島地震で黒埼本部が被害を受けたため、延期の判断となりました。黒埼本部の復旧工事を実施し、2025 年度の課題とします。

⑨配達コースの整備を 2024 ～ 2025 年度の 2 年間で終了する計画で進めています。2024 年度は対象となる 831 コース中、308 コースで対応を完了しました。帰着時間を平均で 3 0 分以上短縮させることが出来ました。

⑩長期延滞金の発生を防ぐため、短期延滞者への電話対応を重点に進めました。延滞が継続するケースについては法的措置も含めて対応を図りました。回収した配達器材への注文書等の混入をなくすため、「物流器材混入撲滅強化月間」に取り組みました。

（3）夕食宅配（デイリー）事業の取り組み

① 新規拡大、利用人数、食数、供給高のすべてで予算を超過しました。各種媒体でのお知らせを計画的に実施しました。

	2024 年度予算	2024 年度実績	予算比
新規拡大（人）	780	911	116.8%
利用人数（人）	133,823	142,611	106.6%
食 数（食）	764,434	809,469	105.9%
供給高（千円）	478,815	505,233	105.5%

②利用定着の取り組みとして加入翌週からお届けを実施しました。目標の 80%に対して 86%の実績でした。

③業務品質向上の取り組みとして、コース効率改善の指標となる「コース管理基準」を作成しました。また、夕食宅配版配達マニュアルの運用 11 月より開始しました。

（4）共済・保険事業の取り組み

①共済加入件数は 5,554 件、予算比 90.0% で予算未達成でした。連携情報件数は 9,588 件で予算比 91.3%で予算未達成でした。

②どこでも加入（非対面加入手続き）比率は目標 25%に対して実績 30%で目標を達成しました。なお、訪問することで 1 軒あたりの加入件数が上がることから、遠方・非対面希望者以外の方に対しては訪問を前提として推進しました。

（5）経営組織強化の取り組み

①積立増資参加者を広げるキャンペーンを実施しました。積立増資参加率が低い 30 代～ 50 代の組合員を重点対象に取り組みました。積立増資参加人数は年間で約 2,000 人増加、出資金額は 1 億 9,258 万円増加しました。

②職員がいきいきと働ける環境づくりを進めました。「子育てサポート企業」の認定「くるみん」マーク取得に向けた取り組みを進めました。職員の定年延長を 2025 年度より実施します。

③採用活動の早期化へ対応するため、「早期選考」を設定しながら採用活動を進めました。正規職員（総合職）・正規職員（専任職）への登用選考を実施しました。

④健康管理対策では、職員の健康診断 100%受診を目指しました。二次健診が必要な職員に対しての受診勧奨を行いました。

⑤福祉事業の研究として、全国の生協の福祉事業の状況と課題、今後の展開について学びました。

⑥コープデリでんきや夕食宅配デイリー化などの調査・研究を進めました。

2024年度損益状況

	2024 年度予算	2024 年度実績	予算比（差）
総事業高	286 億 7,396 万円	289 億 3,249 万円	100.9%
事業総剰余金	68 億 1,263 万円	68 億 8,576 万円	101.1%
事業経費	65 億 3,006 万円	63 億 6,826 万円	97.5%
事業剰余金	2 億 8,256 万円	5 億 1,750 万円	2 億 3,494 万円
経常剰余金	3 億 8,655 万円	7 億 514 万円	3 億 1,858 万円

3．機関運営（理事会・総代活動）の取り組み

（1）理事会運営

①理事会は毎月 1 回開催し、総代会で付託された重要事項の討議と執行を進めました。

②組合員活動推進会議と組合員理事懇談会を月 1 回開催し、重要事項の報告など理事会を補完する協議や組合員活動に関する意見交換を行いました。

③常勤役員会を毎週開催し、日常の業務執行の点検を行いました。また、ペーパーレスでの会議運営に移行しました。

（2）総代活動

①春の総代会議は、オンライン 3 会場を含む 25 会場で開催（土曜日開催 1 回、夜間開催 1 回を含む）し、246 人が出席しました。通常総代会の議案を深めるとともに、e フレンズと注文アプリについて学びました。

②秋の総代会議は、オンライン 2 会場を含む県内 22 会場で開催し 228 人が出席しました。事業報告の他、「コープデリグループビジョン 2035」への理解を深めることを目的にグループ交流を行い、「ビジョン 2035」で実現したい社会への願いについて意見交換しました。

③6 月～ 7 月で総代選挙を実施し、400 人の総代を選出しました。宅配センターでは職員向けの学習会を開催し、機関運営や総代に対する理解を深めました。9 月には「総代交流会」を 9 会場で実施し、生協の歴史や総代の役割についてや、旧両生協の共同開発商品の豆腐「にいがたそだち」について学びました。



▲春の総代会議の様子

4．組合員活動・社会的貢献・生協間連帯の取り組み

①『組合員・地域・他団体など、多彩な「つながり」づくりを意識しながら、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進め、「コープの輪」を広げていきます。』をテーマに、組合員活動を進めました。

②大切にしたい 3 つの視点「商品でつながる」「地域とつながる」「未来へつなげる」をかかげながら、SDGs（持続可能な開発目標）を実現するための取り組みを展開しました。

③「新しい参加の形を大切にしたい組合員活動を進め、コープのファンを増やします。」「事業と活動の連携を強化します。とりわけ商品を軸に取り組みを広げます。」「コープデリグループの一員として共通の取り組みを進め、にいがたを盛り上げます。」を重点課題として取り組みました。

（1）ほぺたんカフェ

①「会場参加型」「オンライン型」合わせて198人のメンバー登録がありました。各月ごとにテーマを設定して交流しました。

②会場参加型では保育も実施し、子育て層の組合員も参加しました。オンライン型では、自宅に居ながら参加でき、大変好評でした。



▲ほぺたんカフェの様子

（2）コープファンクラブ

①好きな時間・好きな場所で参加できる、通信型の企画として実施し、上期 340 人、下期 322 人の登録がありました。

②隔月で資料や試食品をお届けし、コープの商品や取り組みをお伝えしました。試食品のアンケートも行い、声を集約しました。

(3) 各分野の取り組み

- ①コープデリグループの4つのプロジェクトに取り組みました。佐渡トキ応援お米プロジェクトでは地元生協として参加し、秋の稲刈り交流では寄付金の目録と組合員から寄せられた感謝のメッセージを贈りました。また、組合員から3,214枚の「まごころタオル」が寄せられ、感謝のメッセージとともに酪農生産者にお届けしました。
- ②「新潟県村松産特別栽培米こがねもち」の原料となるもち米の田植えや稲刈り、製造現場の見学などの交流企画を五泉市村松地区で開催しました。
- ③JA全農にいがたとの共同企画として、「さつまいも収穫体験」を開催しました。新潟市北区のさつまいも（しるきーも）圃場を訪れ、生産者やJA担当者と一緒に収穫体験を楽しみました。
- ④日本生協連の「ピースアクション in ヒロシマ」に組合員2家族と組合員理事・事務局の合計7人が参加しました。被爆者の証言や若者が進める平和の取り組みを聞いて学びました。そして、この報告会を「ピースアクション in 上越」として開催しました。また、新潟県生協連の「ピースアクション in NIIGATA」にも参加しました。
- ⑤日本被団協のノーベル平和賞受賞に際して呼び掛けられたクラウドファンディングに協力しました。
- ⑥東日本大震災復興支援として、南相馬市内の放課後児童クラブ支援プログラムに取り組みました。市内12の児童クラブ（778人）にお菓子を贈るとともに、鹿島児童クラブを訪問して交流しました。
- ⑦子育て支援の取り組みの一環として、エリア協議会で子育てひろば活動を月1～2回継続して開催しました。また、多世代交流の場としてながおか医療生協の協力のもと毎月1回「長岡わになーれ」を開催しました。
- ⑧「くらしの助け合いの会」では、活動地域の拡大に向けて活動しました。また、会の愛称を会員から募集し、新しい愛称が「スマイルリング」に決まりました。

(4) 組合員組織・エリア協議会

- ①組合員理事の役割を「エリア担当」「政策担当」に分け、それぞれの課題に基づいて活動を推進しました。
- ②エリア協議会は、各地域での会議やイベントを企画・運営しました。また、新年度研修（3月）、スキルアップ研修（7月）、アクティブ研修（10月）、オンライン研修（12月）を開催し、学びながらスキルアップを図りました。

(5) 温室効果ガス削減の取り組み

- ①山田本部と下越センターで自家消費型太陽光発電設備が稼働しました。
- ②EV車両の導入について、営業用の軽車両の導入に向けて調査を進めました。

(6) 社会貢献の取り組み

- ①子ども食堂（12団体）・フードバンクへの食材提供を継続しました。総代会議や組合員活動の場でフードドライブを呼び掛けました。
- ②白根保健生協が取り組んだ、新潟市南区社協の実施事業に向けてのフードドライブに協力しました。新潟グロサリー集品センターの余剰品を寄贈しました。
- ③生産者から寄贈されたお米200kgを新潟県フードバンク連絡協議会に寄贈しました。
- ④未使用文具寄付キャンペーンに取り組みました。寄せられた文具の寄贈式を、アルビレックス新潟ホームゲーム会場で行いました。
- ⑤はがき・切手回収キャンペーンに取り組み、寄せられた寄付金を新潟県共同募金会に寄贈しました。
- ⑥岩手県大船渡市で発生した山林火災に際し、新潟市消防局との災害時の取り決めに基づき、消防職員の物資600食分を届けました。
- ⑦新潟県との「地域の見守りに関する協定」に基づき、引き続き9月・2月の「高齢者見守り強化月間」に取り組みました。



▲タオル贈呈式の様子

(7) 組合員募金の取り組み

- ①2024年の台湾東部沖沿岸を震源とした地震の被害に対して「台湾東部沖地震緊急支援募金」を実施し、233万9,761円が寄せられました。
- ②「令和6年能登半島地震緊急支援募金」に取り組み、4,415万2,321円が寄せられました。また、その後9月の豪雨災害に対して「令和6年能登半島地震および能登豪雨災害募金」を実施し、2,036万1,475円が寄せられました。
- ③ペットボトルキャップ約7,735万個分のリサイクル売却益193万3,800円を「認定NPO法人世界の子どものワクチンを日本委員会」に寄付しました。
- ④「平和募金」を呼びかけ、11万1,114円の募金が寄せられました。
- ⑤「佐渡トキ応援お米プロジェクト」で集まった寄付金345万558円を、佐渡市トキ環境整備基金に寄付しました。10月5日、佐渡市新穂の圃場にて寄付金贈呈式を行いました。
- ⑥「ハッピーミルクプロジェクト」に寄せられた1,959万9,820円を、日本ユニセフ協会を通じてコートジボワール共和国に贈りました。
- ⑦「美ら島応援もずくプロジェクト」に寄せられた216万3,698円を「美ら島応援基金」に寄付しました。

(8) 広報・渉外

- ①広報誌「こーぷふる」、情報紙「コープデリにいがた通信」を定期発行しました。エリア協議会では新潟版と中越・上越版の「エリアだより」を作成し、月1回発行しました。
- ②組合員活動報告用のInstagramでは、ホームページに掲載された情報を中心に掲載しました。
- ③Team ECOプロジェクトに協賛し、再生可能な地球環境の保全に取り組みました。佐渡トキ応援お米プロジェクトとコラボしたTeam ECO Work!を実施しました。
- ④アルビレックス新潟のオフィシャルクラブパートナーとして「“ニイガタガミカタ”プロジェクト」を推進しました。また、組合員対象の企画として、ホームゲームスタジアム見学ツアー等を実施しました。
- ⑤コープデリグループビジョン2035の実現とSDGsの達成に向けた取り組みを組合員・県民に伝える場として、「コープデリにいがたフェスタ2024」を開催しました。取引先や生産者など幅広く出展していただき、8千人を超える来場者がありました。
- ⑥新刊絵本20冊を寄贈し、今一番読み聞かせしたい絵本を全国の園から投票してもらう、「みんなのよみきかせ絵本大賞」に取り組みました。県内では、コープデリ宅配をご利用いただいている31施設を含む37の施設にお届けしました。
- ⑦新潟日報 LEADERS 倶楽部の参加企業として、新潟日報紙面に理事長メッセージが掲載されました。その他、各種の広告協賛を行いました。
- ⑧県内の中学1年生に無料配布される冊子「2024にいがたのおしごと本」で紹介されました。また、長岡市で配布される「ながおかお仕事図鑑2024年版」でも紹介されました。
- ⑨新潟市立木戸中学校の「新潟フィールドワーク」に協力しました。コープデリにいがたの事業内容とSDGsについての学習会を実施するとともに、センター内の施設を案内しました。
- ⑩新潟大学附属新潟中学校の「探求学習」に協力しました。自立した食生活を送るためにミールキットを利用した朝食アレンジレシピの提案を行いました。
- ⑪コープデリにいがたの事業活動および社会活動の紹介を通じてコープの認知向上を図るため、五泉市の行政訪問を実施しました。
- ⑫県内3つの医療生協とともに「新潟まるごと健康チャレンジ2024」に取り組みました。
- ⑬第22回協同組合まつり（新潟市産業振興センター）に参加しました。コープデリにいがたブースで、事業の紹介、商品の試食・販売、組合員活動紹介などを出展しました。



▲コープデリにいがたフェスタ

剰余金処分案

- ①当期末処分剰余金は、5億5,628万円となりました。処分内容として、法定準備金1億円、出資配当金1,734万円（配当率0.3%）、任意積立金3億5,000万円（事業施設積立金2億5,000万円＋リスク対応準備金1億円）とします。
- ②次期繰越剰余金は、8,893万円とします。

I 2025 年度の位置づけ

1. コープデリにいがたとしての組織・業務運営の改革推進

2025 年度は「コープデリグループビジョン 2035 第 1 期中期計画」を基本に、「新しい生協のありたい姿」の実現に向けて、コープデリにいがた 2 カ年事業課題に取り組みます。コープデリにいがた第 1 期中期計画で作り上げた成果を更に前進させるとともに組織・事業運営の改革に向けた取り組みを進めます。

2. コープデリグループ第 1 期中期計画の重点戦略

■第 1 期中期計画重点戦略

ビジョン 2035 実現に向けた第 1 期中期計画基本方針

成長を支える基盤づくり
事業構造の変革を進め、持続可能な生協組織・経営の基盤を改めて創ります。

5 つの成長方針

- 1. 生協の強みを活かした総合力の発揮とつながりづくり**
生活協同組合の強みを活かして、つながりとコミュニケーションを大切にしたい助け合う地域づくりを進めます。
- 2. サステナブル（持続可能）な社会づくりへの貢献**
コープデリグループの SDGs 重点目標の実現に向け、持続可能な食・暮らし、環境や平和への貢献を果たす取り組みをさらに進めます。
- 3. コープデリグループ全体の組織と人の成長**
事業と活動を支える人材の確保を重点に、個人が尊重される組織風土と、一人ひとりが活躍できる場づくりを推進し、誇りとやりがいを持てる組織づくりを進めます。
- 4. 組織革新に向けてデジタル・新たな技術を活用**
事業や活動の変革に向けて、宅配事業を中心としたシステムの再編を行い、デジタル技術やデータ活用を進めます。また、将来に向け新たな技術を活用した事業を創出します。
- 5. 信頼が高まる組織づくりと連帯推進**
食の安全性確保やリスクへの対応を更に強化し、生協への信頼が高まる組織づくりを目指します。

II 重点課題

1. 「コープデリ」ブランドを新潟県内にさらに広げます

- （1）コープデリ宅配事業のブランドを広げます
- （2）コープデリ宅配商品の利用を広げます
- （3）新潟を大切にしたい商品の品揃えや商品開発を進めます
- （4）宅配事業の業務品質向上を図ります
- （5）安全運転を推進します

2. 事業構造の見直しを図り、安定した経営基盤づくりを進めます

- （1）宅配事業の夏季一斉休業を実施します
- （2）コープデリコールセンター委託化を実施します
- （3）新規組合員拡大を推進します
- （4）共済・保険を連携した保障事業を進めます
- （5）夕食宅配事業を広げます
- （6）「コープデリでんき」新たな契約方法での調査を進めます
- （7）EC70%に向けた e フレンズ推進に取り組みます
- （8）重複配達コースの整備を進めます
- （9）健全な運営を確立し、コープデリへの信頼をさらに高めていきます
- （10）経営の安定性、収益性を高めるために長期延滞金を削減します
- （11）新センター建設に向けた諸課題への対応を進めます。
- （12）宅配事業運営および本部機能の改革に向けた取り組みを進めます
- （13）福祉事業の研究を進めます

3. 働き方・働く環境の改善を進め、人と組織の成長を目指します

- （1）事業成長を支える人材確保と育成を進めます
- （2）職員の働き方を改革し、いきいきと働ける環境づくりを進めます

4. 組合員参加を強め、より一層の事業・機関運営の健全化適正化を図ります

- （1）理事会を中心にした総代からの理解が深まる機関運営構築を進めます
- （2）地域とのつながり作りを大切にしながら組合員活動を通してコープのファンを増やします
- （3）2025 年は戦後 80 年および国際協同組合年を迎えることから、誰もが安心して暮らせる未来へ向けて、平和と環境の取り組みに重点をおいて活動を進めます
- （4）組合員活動のデジタル化、オンライン活用を進めます
- （5）今後の組合員活動のあり方の調査・検討を進めます
- （6）多様な組合員活動の場を広げます

5. 地域とつながる・社会とつながる取り組みを広げます

- （1）地域支援の取り組みを引き続き実施します
- （2）温室効果ガス排出削減の取り組みを継続します
- （3）大規模災害等さまざまな状況に応じて、組合員募金の取り組みを実施します
- （4）県行政等と連携し地域への貢献を目指します
- （5）広報活動の取り組みを強めます

2025 年度損益予算			
	2024 年度実績	2025 年度予算	前年比（差）
総事業高	289 億 3,249 万円	284 億 8,425 万円	98.5%
供給高	281 億 5,511 万円	277 億 1,232 万円	98.4%
事業総剰余金	68 億 8,576 万円	68 億 1,455 万円	99.0%
事業経費（人件費）	20 億 8,353 万円	21 億 2,306 万円	101.9%
事業経費（物件費）	42 億 8,472 万円	45 億 2,162 万円	105.5%
事業経費計	63 億 6,826 万円	66 億 4,469 万円	104.3%
事業剰余金	5 億 1,750 万円	1 億 6,986 万円	▲3 億 4,764 万円
経常剰余金	7 億 514 万円	3 億 2,054 万円	▲3 億 8,460 万円

第 3 号議案

役員補充選任の件

組合員理事 1 人の期中辞任、組合員理事 1 人の内規に基づく重任期間の満了、および組合員監事 1 人の申し合わせに基づく重任期間の満了により、組合員理事 2 人と組合員監事 1 人を補充選任することを提案いたします。

組合員理事		組合員監事
長谷川 ひろみ	大柳 牧子	豊田 一恵